博士論文

幼児の意味のある作業とは

～発達障害領域の作業療法士へのインタビューから～

2017年3月

指導教員　　石井　良和　教授

首都大学東京大学院　人間健康科学研究科
（博士後期課程）
人間健康科学専攻　作業療法科学域

大松　慶子

論文種目）研究論文

表題）幼児の意味のある作業とは

～発達障害領域の作業療法士へのインタビューから～

著　　者）大松慶子[1)]，石井良和[2)]

1）　京都保健会　吉祥院病院

2）　首都大学東京大学院人間健康科学研究科

キーワード）意味のある作業，幼児，

作業療法士，質的研究

Title) Meaningful occupation of children

～From the interview of occupational therapists of the developmentally disabled domain～

Author　　）Keiko Omatsu[1)]

Yoshikazu Ishii[2)]

1）OTR，Kyoto Health Association Kissyoin Hospital

2) OTR, Graduate School of Human Health Science,

Tokyo Metropolitan University

Key Words)

meaningful occupation

children

occupational therapist

qualitative research

要旨

発達障害領域の作業療法士 20 名への幼児の意味のある作業についてのインタビュー結果を質的に分析した．さらに先行研究との比較検討から，作業療法士が考える意味のある作業を検討した．結果，幼児の意味のある作業は取り組む全ての作業であった．発達障害領域の作業療法士はその作業を楽しい生活の獲得に向け工夫や段階づけをして支援していた．そして，親子と共にその作業に取り組み，生じる感情と経過を言葉で意味づけすることにより，幼児が社会の中で自信を持って生きていけるよう支援していた．作業療法士の考える意味のある作業は幼児と成人に共通しており，自ら意思表示し，生活史に関係し，自分自身を（再）構築する作業であった．

Abstract

The purpose of this study was to confirm the meaningful occupations of children that occupational therapists specializing developmentally disabled domain think about. We interviewed 20 occupational therapists and analyzed their talking by qualitative method. The results, meaningful occupations of children were all occupations that they worked on in occupational therapy. Occupational therapists worked on those occupations with those children and parents. Occupational therapists and parents gave meanings to children’s feelings and processes by language. And they supported to make their life stories and to get their confidences for living in society. When it's considered according to the preceding study, the meaningful occupations were common to children and adults. The meaningful occupations were expressed to be engaged by the client. And they related to the client's life stories. The client finds his new pleasure and role, spending pleasant days, his life worth to live by engaging in his meaningful occupations.

【はじめに】

作業療法は，クライエントの意味のある作業を可能にするよう支援する[1]．意味のある作業は，カナダ作業療法士協会によると，個人や集団や地域にとって個別的意味があり納得のいく経験を促すために選択され，遂行される作業[2]と定義されている．また，取り組む人とコミュニティの幸福に貢献する作業[3]とも言われている．

昨今，本邦でも意味のある作業という言葉が使われている．この言葉を用いる文献は多くの場合，クライエントの生活の質をより高める作業療法実践を示している．しかし筆者らの調査では，我が国において意味のある作業という言葉そのものを説明した文献は見当たらなかった．

筆者らは，人は外界を文化の中で意味づける[4]存在であると考え，西洋とは文化的に異なる我が国で使用される意味のある作業という言葉が指し示す作業を，事例報告論文を対象に検討した[5][6]．その結果，意味のある作業はクライエントが自ら取り組む意思を示し，生活史の中にあり，取り組むことで新たな自分を再構築する作業であると考えられた[5]．しかし，この文献検索では20歳未満のクライエントが意味のある作業に従事した事例検討論文を見出すことはできなかった．そのため今回，発達途上であり，自身の考えを十分には説明できない満3歳から就学前の幼児も対象にする発達障害領域に勤務する作業療法士（以下，OTR）に，幼児の意味のある作業についての考えを聴取し，カテゴリーを明らかにした後に，成人の意味のある作業との比較・検討を行った．

本研究の目的は，発達障害領域のOTRが考える幼児の意味のある作業を明らかにし，その臨床での配慮，工夫，視点などを示すことである．その結果を基に，成人との比較を通してOTRが考える意味のある作業を考察する．幼児の意味のある作業とその援助等を確認することは，発達障害領域の作業

療法の独自性の認識に寄与するものと考える．なお，本文中では，対象者の発言に沿って幼児を子どもと表現した．

【方法】

1.対象者

関東，近畿，九州地域で発達障害領域に勤務し，4～9年，10～19年，20年以上の各経験年数で研究協力に同意するOTRを，筆頭筆者の研究・教育・作業療法士会活動等を通じて各地域・年代で1～4名まで募集した．その結果，研究に同意を得たOTRは，関東8名，近畿9名，九州6名の計23名であった．そのうち，意味のある作業についてより深く考えているOTRを対象とするため「意味のある作業を担当の全てのクライエントについて考える」と述べた20名を対象者とした（表1，2）．

2.手続き

1）インタビュー・ガイド

対象者に半構成的面接（以下，インタビュー）を行い，内容を録音した．期間は，2013年7月19日～9月12日であった．インタビュー・ガイド[7]は，発達障害領域を含む複数のOTRに項目案を提示し，検討した後に決定した下記の質問項目とした．質問順は，対象者の答えやすさを考慮して決めた．

①子どもが意味のある作業に従事した事例で，印象に残っている事例．

②子どもの意味のある作業を見出す方法．

③子どもの意味のある作業は疾患により違いがあるか．

④作業療法の対象となる子どもの意味のある作業とはどのような作業か．

2）分析方法

インタビューの内容を文字に起こしてデータとし，内容分析[8]の手法を用いてカテゴリーを生成した．手続きの概要は以下である．

（1）記述を意味ごとに区切りカードとして，一箇所に山積みにした．
（2）（1）の山から最初のカードを取り出し，内容を読み一箇所に置き，これを仮カテゴリーとした．
（3）次のカードを読み，内容が最初のカードと似ているかどうかを判断した．似ていれば（2）の仮カテゴリーに入れ，似ていなければ新たな仮カテゴリーとした．
（4）続くカードも既存の仮カテゴリーに入れるかどうかを判断し（3）と同じ方法で分類を続けた．新たな仮カテゴリーを形成すると思えないカードは，1つに集めた．
（5）（4）の多様なカードの集まりからカードを取り出し，既にある仮カテゴリーに入れるか別の仮カテゴリーとするかを検討した．
（6）全てのカードが分類された後，仮カテゴリーに名前をつけた．
（7）数回にわたり仮カテゴリーの関係を検討し，似ているものは合わせた．
（8）各カテゴリーに似ているところが無いと判断するまで（7）の方法で分類した．
（9）全てのカードを分類した後，カードの再検討をし，カテゴリーと下位カテゴリーに名前をつけた．

分析は，発達障害領域の経験15年のOTRと身体・老年期領域の経験32年の筆頭筆者の2名で行った．本研究は平成25年度首都大学東京荒川キャンパス研究安全倫理委員会の承認（承認番号13022）を得て実施した．

3）信用性の確保

信用性を確保するために，対象者へのインタビューデータと分析過程，生成されたカテゴリーを本人に送付し，意見の返送を依頼するメンバーチェック[7)8)]を実施した．

【結果】

1.カテゴリーについて

得られたカードは760枚であった.

メンバーチェックの結果，15名からは同意が得られた．残り5名からは，カテゴリーの入れ替えと内容追加の意見が41件あり，それ以外は同意するとの返答であった．意見を検討し，34件について指摘のように対応した．結果，〈取り組む全ての作業〉〈親子のニーズと観察・評価から〉〈楽しい生活の支援〉〈親子ともやっていけると思えるようになる〉〈意味のある作業への疑問〉の5カテゴリーとなった（表3)．以下に，カテゴリーを〈〉，下位カテゴリーを《》，対象者の発言を「」として詳述する．

a.〈取り組む全ての作業〉

意味のある作業についての考えを示すカテゴリーで，下位カテゴリーは《未来につながる作業》《全ての作業》であった．

データには「遊び自体が意味のある活動（A さん)」「子どもにとって興味があること（E さん)」のように，楽しめることや興味がある遊びという返答が多かった．さらに，セルフケアなどの発達課題，喧嘩や勉強，所属集団から求められ本人もやりたい課題（例：竹馬に乗る）も挙げられた．障害が重度な子ではスイッチを押す，おもちゃを鳴らす等の他に，機能訓練も含むとされた．子どもは作業に取り組むことで発達するため，あらゆる作業が発達と自立を促し生きて行く上で必要な力をつけると述べられた．

疾患による違いでは「意味ある作業の定義は疾患によって変わらない（C さん)」「普通の学校と支援学校では大人が求めてくるハードルが異なる（S さん)」と，疾患よりは子どもの状況と環境により意味のある作業の具体例が異なることがある．しかし，どういう作業かという点は変わらないと返答した．また，「不適切な作業に従事させられることはある（C さん)」「全て（の作業）が意味がある（B さん)」と，不適切

な作業はあるが取り組む全ての作業に何らかの意味があるとされた.

b.〈親子のニーズと観察・評価から〉

意味のある作業を見出す方法のカテゴリーであり，下位カテゴリーは《子どもと親のニーズから》《観察と評価》となった.

OTR は，子どもを観察し，子どもや親からその子の好みや困っていること，ニーズを聞いて意味のある作業を見出していると述べた.

子どもは気持ちを言葉で表現することが難しいが「子どもがうろうろ歩きをしていればうろうろ歩きます(E さん)」「私も一緒に走ったり（I さん)」と，理解するための工夫が語られた．親からの聴取については「一番，親御さんが長く関わっているので（S さん)」「困っていることとかこうなって欲しいことを聞きます（G さん)」と述べた．用いる評価法は，日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査など作業療法で通常用いる評価であった.

c.〈楽しい生活の支援〉

意味のある作業を支援する方法と目標を示すカテゴリーである．下位カテゴリーは《楽しい生活の支援》《親の価値観に働きかける》《経験と協力》であった.

OTR は「楽しいことを積極的に提供してる（A さん)」「(その場の楽しさと将来は）繋がってます（B さん)」「無秩序で意味がない動きですけど，その意味を読み取って形あるものに仕上げる．達成感が生まれヒットすると『あー，僕のやりたかったのはこれなんだ』って自分の行動に気づく.それは，意味のある作業のお手伝いができたっていうこと（E さん)」「できた時お母さんと過剰なくらい褒めちぎって，自信をつけさせる．意味のある作業は，それを通した人とのやりとりです（G さん)」「励ましや，上手にできたね！っていう賞賛

の関わりがベースに必要（O さん）」「かわいいね，楽しいね，って自分もセラピーを楽しめるようにやった（N さん）」「こちらが意味づけすることの方が多い（Q さん）」のように，子どもの行動を言葉で意味づけ，励まし，賞賛でフィードバックすると述べた．

さらに親に対しても,「ご飯の場面を一緒に見て…こういう関わり方がいいよとか，こういう力がありますと伝えて家に持って帰ってもらう（B さん）」のように支援していた．そして「お子さんやご家族が生活し易くなり過ごしやすくなれれば，それが意味のある作業（P さん）」「成績でいい点とれるという尺度でなく，できなかった事ができたということが，その子にとって意味ある作業となる（O さん）」という考えと，親の養育態度により子どもの成長が異なるという経験から，親と同じ目線で子どもを援助し，困り事にアドバイスしていた．OTR は「お母さんと一緒にやった過程で…この子が不安になった時の方略の立て方が分かった，と言ってもらった（P さん）」「色々な経験がその子や家族の成長に繋がっていく（B さん）」「お子さんの見方とか共感したり考えてもらえたら,後の十何年間の成長の糧になる(P さん)」と述べた．OTR は親や周囲が一般に持つ「できること，能力が高いことが重要」という価値観を変え，生活を楽しむ事を重視するよう働きかけていた．

また，子どもに対するアプローチの難しさも述べられた．OTR は「ちょっと上手くいかないと『もうやんない』と自分が好きな遊びに行ってしまったりする（B さん）」「したいことは自由に選んでもらって，その中で出したい能力はこちらが設定していきます（K さん）」「コミュニケーションが取りにくいからそのツールを教えるよりは，本人がアクティブに外界に関わりたくなる場面を作ることが多い（H さん）」と述べた．支援の具体例を要約すると，コミュニケーションが難

しいが物を叩くことが好きな子に，叩く対象と OTR が一直線になり視野に入ることを繰り返し,OTRに気づくようにした．やがて OTR に気づくようになると，OTR の顔と手が見える位置でタッチを繰り返し子どもから手が出るようになった．それを自宅で両親も試みてコミュニケーションに繋がったというものがあった．OTR は，子どものやりたい行為や活動に支援上の意味づけをする方法を考え，試行錯誤をしながら実践していると述べた．

援助では，子どもがやりたい作業にその子の課題にあわせた工夫を加えることと，臨床経験や他職種との協力を前提にしていると述べた．発言は「最初は『何に困っていますか』って聞いても上手く引き出せなかった．だけどやっていくうちに，お母さんがどこに困っているのかをたっぷり聞いた方が，やることが明確になる感覚がしてきた（B さん)」「(子どもは）他の職員にも褒められると嬉しいので（N さん)」「医療機関でスプリンティングをやってもらい，私の方で作業療法をやる役割分担をした（A さん)」などであった．その目標は達成感とさらなる作業への意欲を育てることを通じて，子どもが楽しい生活を送れることであった．OTR は「平仮名ができない脳性麻痺の両麻痺の女の子です．すごく嫌がってたんですが，あるアイドルが大好きで葉書を書こうって言ったら，あっという間に平仮名を覚えました．それが意味のある活動（L さん)」「『私がお手伝いしてあげる』ということが出来るようになった（S さん)」と述べた．

d.〈親子ともやっていけると思えるようになる〉

意味のある作業を支援する最終的な目的を示すカテゴリーであり，下位カテゴリーは《やっていけると思えるようになる》《周囲への良い影響》であった．

OTR は「達成感を積み重ねる中で，やっていけると思えるようになる（M さん)」「いつも食事中に苦しくなるんだけど

（意味のある作業に取り組んだ後は）痰がしっかり出せて，お母さんと満足して帰った（D さん)」「子ども自身が何とかやっていけそうだ，と自分に OK を出す姿を見ないと親の方は終わらない（M さん)」と述べた．

e.〈意味のある作業への疑問〉

13 名の OTR が〈意味のある作業への疑問〉を述べた．内容は，「自分が使ってる意味がこの意味となんかこう（しっくりこない）（P さん)」「(意味のある作業が）私の中ではちょっとよくわからない（R さん)」「誰の目線で意味があるって言うのか（C さん)」「例えば動きが出しやすくなって手が使いやすくなったとして，それは OTR にとって意味のある作業で子どもにとってはボールで遊んだっていうことでしかない(M さん)」「僕らは人生作りに携わっているので，結果は 50 年先に出てくるかもしれないと考えたときに意味があるとはどういうことかな（C さん)」などであった．

考察

1.意味のある作業のカテゴリーについて

子どもの意味のある作業のカテゴリーは 5 つであった．

OTR は，子どもの状況と環境により具体例に違いはあるが，これから成長していく子どもには，遊びやセルフケア課題，機能訓練，集団から求められる作業など作業療法で〈取り組む全ての作業〉に意味があると考えていると述べた．これは「その子が可能な限り世の中で生きやすくなるための活動(B さん)」という言葉のように《未来につながる作業》と考えられた．

作業は文脈によって意味が変化する[9]．たとえ同じ作業であっても作業する主体と日時や場所，状況が異なれば取り組む人はその度に異なる影響を受ける可能性がある．子どもは成長し変化する主体であり，取り組む作業が発達や障害に与える影響は作業療法のたびに異なり大きいと考えられる．子

どもは興味のある作業にしか取り組まないという側面も含め，作業療法で〈取り組む全ての作業〉が意味のある作業であると考えられた．

さらにOTRは，意味のある作業を見出す際に子どもからの聞き取りと観察，評価，親の困り事の聴取をしていると述べた．これは，子どもを最も理解しているのは長時間接している親だという考えからであると説明された．

作業を支援する際は，〈楽しい生活の支援〉にあるように，興味のある事にしか取り組まない子どもに対し対応に工夫を重ね，他部門とも協力して楽しい生活の獲得を目指して支援していると言った．OTRは，子どもの行動への言葉での意味づけを通して達成感と意欲を引出し，障害の回復に注目する親の価値観に対しても相談相手になって楽しい生活の大切さを語り，変化を促していると考えられた．

発達障害領域では従来から家族を視野に入れた支援が唱えられている[10)11)]．親は一般社会の“賢い子が望ましい”という価値観を内在化しており，世間への羞恥心や家族へのすまなさ，将来に対する不安等を，時間をかけて解決していく[12)]．これは障害受容の段階論モデル[13)]があてはまると一般には考えられている．一方，障害受容の螺旋形モデルでは子の障害を受容したと見られる段階でも，健常児では当然の発達的事象が親の悲哀を再燃させるという[11)14)]．

OTRは親が日々を楽しみ前向きであれば子どもも多くの作業にチャレンジできるようになるとの考えから，悲哀を抱えている親に対し，子どもの障害の軽減は生活の目的ではなく一部分であることと生活を楽しむことの重要性を伝え，親の価値観の変化を促していると述べた．OTRは親に対し，障害のある子を育てながら生きる上での自信を持つよう働きかけていると考えられる．これらの働きかけは，逆境を跳ね返しさらに成長するレジリエンス[15)16)]を高めるものと言えよう．

親子に対する〈楽しい生活の支援〉が子どもの達成感と次の作業にチャレンジする意欲を育て，その積み重ねが子どもの自信と親のレジリエンスを高める．それが〈親子ともやっていけると思えるようになる〉につながると考えられた．OTRが意味のある作業を支援する最終的な目的は，親子が自分達の人生を，自信を持って生きていけることであった．

2.〈意味のある作業への疑問〉からの考察

対象のOTRの多くは意味のある作業という表現に疑問を感じていた．ここでは，このカテゴリーに含まれる，①意味のある作業と表現する必要性，②意味の有無を判断する主体は誰か，③意味とは何か，の3つの疑問を抽出し，子どもの意味のある作業を考察する．

① 意味のある作業と表現する必要性

対象OTRの多くは作業療法で実施する作業を意味のある作業という表現では考えていないと述べた．これは〈取り組む全ての作業〉が該当すると考えているためであろう．この理由は，発達障害領域の作業療法で用いてきた作業を振り返ることでより明確になると考える．

OTRの述べた意味のある作業には興味があること，楽しめること，遊びが多かった．作業療法白書1990[17]によれば，児童福祉施設では，個別・集団ともに運動あそび，触覚あそび等‘あそび’とされた種目が各15位までのうち個別で6種目，集団で10種目あり，他にゲーム等も入っていた．遊びは，衝動や本能という人間の基本的欲求を充足し，おもしろみ，快楽，楽しみを伴うものである[18]．発達障害領域のOTRは，1990年以前から，遊びなどの子どもの欲求を充足し楽しめる作業を用いてきたことになる．意味のある作業という言葉は我が国では1990年代後半から使われている[19]が，この表現が使われ始める以前から通常の作業療法過程で用いてきた作業であれば，当然ながらわざわざ意味のある作業と表現する必要

性を感じないと考えられた．

② 意味の有無を判断する主体は誰か

結果では，意味のある作業を支援する目標は〈楽しい生活の支援〉であり，実際の支援の場では親子と OTR が楽しみながら作業に取り組み，子どもの成功を共に喜んでいると述べられた．OTR は親とともに言葉にならない子どもの感情や行動を「楽しいね」「上手にできたね」と言葉で表現しコミュニケーションの手段に変化させる等，公共の世界で解釈できるよう意味づけをしていると考えられた．

作業療法は,OTRとクライエントを含めた参加する人々が，経験と行動を共に創り分かち合う間主観的な過程[20)21)]とされている．間主観性とは，情動の共有を基盤とした互いの意識に引き寄せられていること[20)]であり，鯨岡[22)]はこれを，自分が一個の主体として生き且つ相手を一個の主体として受けとめることと，自分を通して相手の気持ちが分かることに分けて考えた．そして，子どもを主体として受け止めて関わっているうちに間主観的に「分かる」局面が訪れるとした．子どもを「分かる」ためには，大人が子どもを主体として尊重し，分かりあう関係を築くことが重要なのであろう．

対象者が述べた作業療法は OTR と親子が互いを主体として認め合い，共に作業を楽しみ子どもができた事を喜ぶ，間主観的に分かり合う場と解釈できた．その場での三者は心が通い合うチームのような存在であり，これが作業に意味づける主体と考えられた．

③ 意味とは何か

OTR からは意味があるとはどういうことか分からないと疑問が述べられた．

前段では，意味づけとは，従事したときの感情や行動を公共の世界で解釈できるように言葉で表現することと考えた．言葉は他者と同じ世界で生きていくために獲得されていく[4)]．

そう考えると，意味とは，子どもをその社会の中に包摂し，物事の解釈や気持ちを分かちあうための手段として使うものと言えるのではないだろうか．意味を共有することで，我々は同じ社会で生きやすくなっていく．子どもにとっての作業の意味は，楽しい生活を送り，〈親子ともやっていけると思えるようになる〉ための手段であり，子どもは意味を共有することで，将来の自分の人生を創っていくための基礎づくりをするのだと考えられた．

3.成人の意味のある作業との比較

先行研究[5]から，成人の意味のある作業は〔自ら意思表示した〕〔生活史の中にある〕〔新たな自分につながる〕のどれかのカテゴリーを含む作業であった．本研究結果と前述の考察から子どもの意味のある作業固有のカテゴリーは,〈取り組む全ての作業〉〈親子のニーズと観察・評価から〉〈楽しい生活の支援〉〈親子ともやっていけると思えるようになる〉と考えられる．子どもの場合は言葉で意思表示できないために，OTR が〈親子のニーズと観察・評価から〉見出した〈取り組む全ての作業〉が〔自ら意思表示した〕作業に相当すると考えられた.〈楽しい生活の支援〉は，それによって子どもの生活史を作っていく時期であり〔生活史の中にある〕に相当するであろう.〈親子ともやっていけると思えるようになる〉は，親子が自信をつけ次の作業に取り組んで自らを構築していくという意味で〔新たな自分につながる〕に相当すると考える．

以上より，OTR の考える子どもと成人の意味のある作業は共通しており，自ら意思表示し，生活史に関係し，自分自身を（再）構築していく作業であると考えられた．

【まとめ】

発達障害領域の OTR20 名への,子どもの意味のある作業についてのインタビュー結果を質的に分析した．さらに先行研究から，OTR が考える意味のある作業を検討した．質的分析

の結果，子どもの意味のある作業は取り組む全ての作業であった．発達障害領域の OTR はその作業を親子のニーズと観察・評価結果から見出し，親子の楽しい生活の獲得に向け，工夫や段階づけをして支援していた．そして，親子と共にその作業に取り組み，生じる感情と経過を言葉で意味付けすることにより，子どもが社会の中で自信を持って生きていけるようその子の人生の基礎を創っていた．OTR の考える意味のある作業は子どもと成人に共通しており，自ら意思表示し，生活史に関係し，自分自身を（再）構築する作業であった．

【本研究の限界】

本研究は，時期と地域を限定した対象に対するインタビューを基にしている．今後は，異なる時期と地域での検討が必要である．

謝辞

本論文執筆にあたり，対象者の皆様，分析にご協力頂きました関西学研医療福祉学院北野真奈美先生，多くの助言をいただきました目白大学大学院山田孝先生，ご支援下さいました皆様に深謝致します．

文献

1) Clark F. Ennevor BL. Richardson PL（村井真由美・訳）: 作業的ストーリーテリングと作業的ストーリーメーキングのためのテクニックのグラウンデッドセオリー．Zemke R. Clark F （佐藤剛・監訳），作業科学　作業的存在としての人間の研究，三輪書店，東京，1999，pp407-430.

2) カナダ作業療法士協会（吉川ひろみ・監訳）: 作業療法の視点　作業ができるということ.大学教育出版,岡山,2000, pp207.

3) Hammell KW : Reflections on …well-being and occupational rights. Can J Occup Ther,75:61-64,2008.

4) ジェローム・ブルーナー（田中一彦・訳）: 心を探して　ブ

ルーナー自伝．みすず書房，東京，1993，pp255-350.
5）大松慶子，石井良和，山田孝：意味のある作業とは －1995年～2010年における国内事例報告の質的検討－．日保学誌18（2）：51-63，2015.
6）大松慶子，石井良和，山田孝：我が国における意味のある作業と意味のある作業以外の作業の特徴～1995 年から2010年の事例検討～．作業行動研究 17：211-220，2014.
7）ウヴェ・フリック（小田博志，山本則子，春日常，他訳）：質的研究入門 - 〈人間の科学〉のための方法論．春秋社，東京，2002，pp94-102，pp271-283.
8）Lincoln YS，Guba EG：Naturalistic Inquiry. Sage Publication，California,1985，pp289-38.
9）吉川ひろみ：「作業」って何だろう　作業科学入門．医歯薬出版株式会社，東京，2008，pp43-61.
10）木村順：発達障害領域の作業療法の課題．作業療法 22:208-212，2003.
11）中田洋二郎：子育てと健康シリーズ⑰　子どもの障害をどう受容するか.大月書店,東京,2012,pp29-47,pp49-95.
12）野辺明子，加部一彦，横尾京子：障害をもつ子を産むということ　19 人の体験．中央法規出版株式会社，東京，2007.
13）上田敏：目でみる脳卒中リハビリテーション．東京大学出版会，東京，1981，pp5.
14）中田洋二郎：親の障害の認識と受容に関する考察－受容の段階説と慢性的悲哀.早稲田心理学年報 27,83-92,1995.
15）アンドリュー・ゾッリ，アン・マリー・ヒーリー（須川綾子・訳）：レジリエンス　復活力―あらゆるシステムの破綻と回復を分けるものは何か.ダイヤモンド社,東京,2013,pp3-32.
16）加藤敏・編：レジリアンス・文化・創造．金原出版株式

会社，東京，2012，pp2-29.
17）社団法人日本作業療法士協会：日本作業療法士協会 25 周年記念　作業療法白書 1990.作業療法 10　特別．91-100，1991.
18）Reilly.M（山田孝・訳）:遊びと探索学習―知的好奇心による行動の研究―.協同医書出版社，東京，1982，pp59-64.
19）大松慶子，石井良和，山田孝：日本作業療法学会発表における意味のある作業とその類似の言葉の使用について．作業行動研究 16：176-182，2012.
20）辛島千恵子（編）：広汎性発達障害の作業療法－根拠と実践－．三輪書店，東京，2010，pp90-123.
21）Lawlor M：The Particularities of Engagement：Intersubjectivity in Occupational Therapy Practice. Occupation, Participation and Health 32：151-159,2012.
22）鯨岡峻：ひとがひとをわかるということ　間主観性と相互主体性．ミネルヴァ書房，京都，2006.

表1	対象者の経験年数と勤務地域							
経験	4～9年		10～19年		20年以上		計	
地域＼回答	a	b	a	b	a	b	a	b
関東	2	0	4	0	1	1	7	1
近畿	3	0	2	1	3	0	8	1
九州	2	0	1	1	2	0	5	1
計	7	0	7	2	6	1	20	3

＊ c.d の回答は0名

質問	担当クライエントの意味のある作業についてどの程度考えるか
回答	a. 担当の全てのクライエントについて考える
	b. 担当のうち数人について考える
	c. あまり考えない
	d. 全く考えない

表2　対象作業療法士と事例の概要

作業療法士	発達領域勤務年数	勤務施設の概要	現在の主な対象疾患	事例として語られた児の受療形態と疾患	
A	30年	大学教員（週1回通園施設）	発・肢・重	外来	脳性麻痺，アペール症候群
B	19年	大学教員（週1回通園施設）	発・肢・重	通園	自閉症，脳性麻痺
C	11年	通園施設	発・肢・重	外来	高機能自閉症，自閉症
D	17年	通園施設	発・肢・重	外来	重症心身障害
E	16年	入所・外来・通園施設	発・肢・重	外来	重症心身障害
F	6年	外来医療施設	発	外来	ダウン症
G	5年	入所・外来施設	発・肢	外来	広範性発達障害
H	8年	外来医療施設	発・肢	外来	自閉症，自閉症，広汎性発達障害
I	4年	外来医療施設	発・肢	外来	自閉症
J	12年	外来医療施設	発・肢	外来	広範性発達障害
K	4年	入所施設	重	入所	全前脳胞症
L	19年	入所・外来医療施設	肢・重	外来	重症心身障害，脳性麻痺，脳性麻痺
M	26年	入所・外来医療施設	肢・重	（具体例なし）	（具体例なし）
N	25年	入院医療施設	肢	外来	染色体異常，脳性麻痺
O	36年	入所施設	重	入院	重症心身障害
P	9年	入所・外来施設	発・肢・重	外来	自閉症
Q	10年	入所・外来施設	発・肢・重	通園	脳性麻痺
R	25年	訪問	発	訪問	脳性麻痺
S	6年	入所・外来施設	発・肢・重	通園	骨形成不全症，脳性麻痺
T	39年	なし	なし	外来	重症心身障害

＊対象疾患は，発達障害，肢体不自由，重症心身障害をそれぞれ　発，肢，重で示した

表3　分析過程とﾃﾞｰﾀ

カテゴリー	下位カテゴリー	仮カテゴリー		データ（対象者の発言　例）
取り組む全ての作業（240）	未来につながる作業（180）	将来につながる（33）	将来につながる（10）	その子が可能な限り世の中で生きやすくなるための活動になるのかな．（Bさん）
			自立に向かう（6）	子ども自身が，これで何とかやっていけそうだ，と自分にOKを出してくれるような姿を見ないと，親の方は終わらないというか．（Mさん）
			自ら環境に働きかけられる（11）	自発的に自分から取り組むっていうのが，特に幼児さんでは大事だと思いますね．（Jさん）
			「今やりたい」と「将来につながる」（6）	今と，将来に向けての今，というのと2通りあるかな．（Cさん）
		発達像と興味の重なる遊び（102）	楽しめる（39）	無理にさせられてる感じじゃなく，楽しめたっていう感じですね．（Nさん）
			興味がある遊び（14）	遊び自体が意味のある活動なんじゃないかな，って思いますね．（Aさん）
			興味がある（13）	意味ある作業とは，子供にとって興味があること．（Lさん）
			発達課題（7）	子どもの発達課題っていうのが，その子にとっては意味ある一つの作業っていうか，そう考えることができると思うんですね．（Tさん）
			遊び（1）	こどもの意味のある作業というのは遊びかな，と思ってます．（Kさん）
			遊びを通した人とのやりとり（2）	遊びを通して人を理解してほしい．きっかけが遊びなんですけど，そこで生まれるやりとりを私は結構重視しています．（Gさん）
			発達像と興味の重なる遊び（26）	楽しいと思える時間が過ごせるところが，その過ごした活動が意味があるんじゃないかな，と思っているので，その楽しいっていうのは，今できているところよりもちょっと難しい課題，ちょっとチャレンジする課題っていうのが，子供たちにとってはすごく楽しい活動であり，作業かな．（Sさん）
		生命と機能を維持する（3）	機能を維持する（1）	機能訓練という要素がすごく強い作業っていうのも，機能を維持するという意味ではすごく重要な作業だし，（Sさん）
			生命を維持する（2）	楽に生活ができるとか，苦しくないとかいうことも子どもさんにとって意味のある作業と言ってもいいのかな．（Rさん）
		出会い，求められやりたい生活課題（42）	所属集団で出会い求められる作業（17）	幼稚園とかだと，なんか皆で何かするとか運動会とか，運動会の中でその子がどういうふうにそこに参加していけるかとか，（Fさん）
			普通の生活上の課題（13）	日常生活活動というのもこどもにとっては意味のある作業でしょうし，（Tさん）
			必要とされ且つやりたい（12）	着替えだったりお食事だったり，というような，本人に求められているというか，本人がしたい作業．みんなができてて自分もしたいなと思っている作業．（Qさん））．
	全ての作業（60）	子どもの要素で異なるが意味は共通（49）	子どもの持つ要素で種目は異なるが意味するものは同じ（40）	意味ある作業の定義が疾患によって変わるわけではないと思います．（Cさん）
			子どもの状況によって異なる（9）	NICUから直接入院されてきたりとかも重身の場合はされますので，本当にそういう経験が無い方もいらっしゃるんですよ．ず一っとこう機械，チューブに繋がれててピコピコっていう音の中で過ごされてる方もいらっしゃるんで，そこから探っていくっていうケースもあると思います．（Oさん）
		全ての作業に意味がある（11）	子どもには全ての作業に意味がある（8）	あらゆる事が本人にとって意味のある作業ととらえています．（Hさん）
			結果には色々な意味あいがある（2）	その作業に従事した結果何が得られるかっていうところでは，非常に多義的かな，というふうに思うんですよね．（Oさん）
			不適切な作業はあるが意味の無い作業はない（1）	虐待を受けるとか，虐待環境に置かれるとか，不適切なんていうのは沢山出てくると思うんですけども，意味の無い作業ってこと自体が，あんまり子どもにとっては無いかな．（Cさん）
親子ともやっていけると思えるようになる（135）	やっていけると思えるようになる（105）	達成感が自信につながる（63）	意欲と態度に良い影響を引き起こす（9）	またあそこに行きたいとか，ここに来たいとか，わくわくするそんな期待もできるということで，少し秩序だった行動に変わってくるかな．（Eさん）
			様々な良い影響を引き起こす（9）	精神活動にも，意欲面でもね，それから情緒面でも運動面でもね．（Tさん）
			自己コントロールができる（4）	対応力が弱い子が発達障害と言われてると思うんですけどね．変化に対応して，自分なりに工夫できるようになると，大まかにはいいと思ってます．（Jさん）
			精神面の力がつく（10）	聞き分けが良くなるということは，こっちを意識してくれたということだと思うので，外界への意識がやる前とやった後では違うかな．（Eさん）
			達成感が自信につながる（28）	子どもさんは自分ができると，ほんとに表情がパッてこう明るくなります．（Oさん）
			やっていけると子ども自身が思うようになる（3）	自分でできるようになったので，お母さんが今までやってたことにその子が「やらなくていいよ」って言うようになった事があって．やっぱり自分でできることってすごく嬉しいんだな．（Aさん）
		次のチャレンジにつながる（42）	遊びが発達を促す（12）	初めて見てくる人にも，1回目からではないんですけども，一緒にやっていく中でアイコンタクトとったりとか，ず一っとつきあっている人じゃないときでも，子どもさんからの発信ていうのが出てくるようになったっていうのが，変化かな．（Iさん）
			次の作業につながる（6）	自分でひらがなが読んだり書けたりできなかったけど，持ちやすい鉛筆や，グリップを変えてあげる援助をしてあげると，ちょっと書くっていうことができるようになったということで，遊び自体が広がってきたっていうような，変化がみられたことはあります．（Qさん）
			遊びの幅が広がる（4）	しっかりと体ができてくると，手を使うっていうのも，段階としてはまたさらに進んでくるので，そういう部分から考えると，遊びの幅は広がってくるかな．（Fさん）
			能力が発揮できる（1）	いつも食事の時に，ヘッドを保てない子で，グラグラか反り返って押しつけるかどちらかなので．ところがその日は押し付けもせず保持していられるんですね．（Dさん）
			次のチャレンジにつながる（11）	次もチャレンジしようと思って，困難にぶつかった時に前に進むようなことができるようになっていくんじゃないかなと思います．（Dさん）
			ADLに結びつく（8）	そうこうしているうちに，ｽﾌﾟｰﾝで押さえながらご飯が食べれるようになったんですけども，（Nさん）
	周囲への良い影響（30）	周囲にも良い影響がある（30）	子どもにもOTにも良い影響がある（1）	私たちにとっても意味のある作業だし，本人にとっても意味のある作業なんだな，ていうのがすごく感じた場面だったんですね．（Dさん）
			OTも楽しさを共有できる（3）	こちらも楽しくなる，彼女が頑張ると良くできたね，て言って，じゃもう一回やってみようか，って（Oさん）
			親子とも良い経験ができる（16）	一番は，お母さんすごく楽になったって．行動がすごく変わって，お母さんもすごく楽になったっていう言葉が聞けて．結局，就学と同時に終了になったんですけど彼もすごい成長でした．（Gさん）
			子ども，周囲，OTにとっても意味が生じる（10）	それを見ていてすごいなーと思って，お母さんとすごいなーって言ってて，彼もすごいなーと思ってる感じで，（Dさん）

（表3	続き）			
親子のニーズと観察・評価から（91）	子どもと親のニーズから（43）	親のニーズ（35）	養育者からの情報収集（35）	本人が，こうなりたいみたいなのが無い場合は，養育者である方のお話しをしっかり聞いて，どういう事をするかを探していく方法をとっているかな，と思います．（Pさん）
		子どものニーズ（3）	子のニーズを聞く（3）	一番は本人に聞く．何がしたいか．（Qさん）
		子どもと親のニーズ（5）	子と親のニーズを聞く（5）	多分，一番，親御さんが長くかかわっているので，何がしたそうと思うか，とか，どんなことが楽しいと思うと思いますか，っていうのを親御さんに聞くようにはしています．（Sさん）
	観察と評価（48）	観察（32）	観察（32）	観察ですね．（Fさん）
		評価（8）	評価（8）	全身の体の筋緊張．表情で見れる人は表情で判断できるんですけども，それとあわせて，眼の開き具合だとか，体の筋緊張の変化であるとか，そのようなところから合わせもって，評価していくというか，探っていく，という感じですね．（Oさん）
		観察と評価（8）	観察と評価（8）	観察と，評価バッテリー使って．（Gさん）
楽しい生活の支援（255）	楽しい生活の支援（167）	「できたぞ」と「やりたい」を引き出す（77）	子どもの幅を広げる支援（35）	今持っている力っていうのを，そこをいかに伸ばしてあげて，そこの課題となっているところを補っていけるか，っていう，（Fさん）
			励ましと賞賛（3）	褒められるとうれしくて頑張ったりというところも含めてできるといいのかな，と考えます．（Nさん）
			チャレンジをサポートする（12）	チャレンジしてもすぐにあきらめてしまう子たちが，やりたい事っていうのがちゃんとできたぞとか，遊びの中で自分でできたぞとか，自分でこう，試行錯誤した結果，できるんやっていうのがわかったとか，そういう場面をいかに作り出すかっていうことに力を注いでることが多いので，（Hさん）
			「できたぞ」を作り出す（12）	成功体験を引き出すようなかかわりっていうのを目標にはしています．（Rさん）
			「やりたい」を引き出す（15）	その子に，「もう一回やりたいな」，「楽しいな」．達成感があるようなことっていうのを見つけ出せるように考えています．（Iさん）
		好きなことを意味あるものに変化させる（60）	細かく変化させる 関わり方（11）	少しずつ少しずつ小さな針の孔みたいなの少しずつこじ開けていくみたいにして，バリエーションを広げていくようなことしてるのかな．（Bさん）
			創意工夫（3）	すごくおもちゃを工夫しましたね．テーブルの上から落ちないセッティングとか．叩いて回るとか．それから，叩くような動作だから，叩いて音が出るとか，ゴムのようなもので，おもちゃを固定して，それにぶら下げて叩くと動くっていうようにね．（Tさん）
			動きを形と意味あるものに仕上げる（19）	そこを意味づけしてる．こちらが意味づけすることの方が多い気がしますね．（Qさん）
			好きなことを変化させる（27）	したいことは自由に選んでもらって，その中で，出したい能力はこちらが設定していくようにしています．（Kさん）
		楽しい生活の支援（30）	楽しい生活の支援（12）	その子供自身が「楽しいな」って思える生活ができる支援ができたらいいな，っていうのはすごく考えています．（Sさん）
			OTが自然に取り組む作業（2）	OT場面って個別ですし，そのお子さんの発達像とか障害像にジャストの遊びの場面を提供するので，（Aさん）
			遊びかどうか区別できない活動（2）	遊び方も知らずにうろうろしてる子もいたりして，無意味に走ってる子もいたりして，走り方もわからずに頭ぶつけてる子がいたりすると，それをじゃあ，はたしてそれは何なのか，って言われたら，それは，言葉をつけてしまえばそれは問題行動だとか，これは遊びだね，とか，なんか理由を得るかもしれないけど，子どもさんには多分その区別ってのはなくて，内側からほとばしるエネルギー，でも，子どもにとってはそれは意味のある活動．（Eさん）
			生活がしやすくなる援助（14）	歯科の手順を，訓練の中で写真に撮ったのを見せて，歯科ってこんなんだよと説明して，歯科室に移動して，歯医者さんが受けれるようになったりとかした．（Pさん）
	親の価値観に働きかける（63）	大きく影響する取り巻く人々の態度（9）	チャレンジできる環境は子どもの成長を変える（9）	どんどんチャレンジさせてあげられる家族は，（そうでない）家族とは全然、，成長のしかたが違うなって感じもしましたね．生き生きとしてるっていうんですかね．（Bさん）
		親の相談相手（35）	親の相談相手（4）	この子どうなっていくんだろう，とか，不安でたまらないけど，ある程度できることもわかってきて，そこにちゃんと相談できる人がいるっていうのはすごく大きいかなって思うんですよね．（Gさん）
			親と共通の視線（3）	お母さんにもちゃんとその変化をわかるように伝えたり，その見方をお伝えして，お母さんと同じようなタイミングで「おー」とか，「あ、すごい」とか．お母さんを味方につけるじゃないですけど，共通の目で見れるような目線を．（Kさん）
			親子の時間をサポートする（1）	発達の中では，意味のある作業というのも，僕の中では意味のある時間と思ってるんです．作業がず一っと連続した時間を，その親と子どもがある時期を過ごすというか，そのことを作業療法士がサポートするというか．（Mさん）
			子どもの理解を親に促す（27）	通園施設に週1回行って通ってきてるお子さんたちのご飯の場面を一緒に入って見て，食べ方とかお母さんがどんな事に困ってるのかを聞いて，こういう関わり方がいいよとか，今の力としてはこういう力がありますよとお伝えしてお家に持って帰ってもらう，というのやってるんです．（Bさん）
		親の価値観を　変える（14）	親の価値観を変える（14）	状況によっては，そういうふうに考えるのは目からうろこでした，っていうふうに言ってくださる方も，お母さん方もいらっしゃいますし，（Eさん）
		生活を楽しむことが大事（5）	社会の中で上手くやっていくことが大事（2）	社会の中でうまくやって，学校行きたくないと言わない，とか．そういうことがすごく大事だな，と思って．（Mさん）
			生活を楽しめることが大事（3）	本人さんとご家族が楽しく，前向きに行ける活動かな．（Lさん）
	経験と協力（25）	難しい子どものOT（14）	難しい子どものOT（14）	これやろうとか，じゃ座ってとかやろうと思ってもその子が許してくれないかぎり活動にならないから．むりにぐっと座らせて，はいやるよっていうようにしても，やっぱり乗らないんですよね．（Bさん）
		他部門との協力（11）	他の部門・機関との協力が必要（11）	チームでアプローチしていかないと成長に繋がっていかない（Bさん）
意味のある作業への疑問（39）	意味のある作業への疑問（39）	意味のある作業と表現する必要性（6）	普段「意味のある」で作業を考えていない（6）	無意識に考えているといいますか・・・全てのお子さんに考えてると言う感じですね．自分の中で，意味のある作業について，そういう定義で考えてない感じですね．（Jさん）
		意味があると判断する主体は誰か（6）	誰にとって「意味のある作業」か（6）	誰の目線で意味があるって言うのかな．（Cさん）
		意味とは何か（27）	意味とは何かが腑に落ちない（27）	幼児の意味のある作業が私の中ではどうとらえたらいいのか，よくわからない．（Qさん）
				＊カテゴリー後の（　）内はデータの件数（カードの枚数）を表示した